



## みんなのできる 地球温暖化防止活動

―退職後の社会貢献として、推進員活動をしています!!―

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人つくしまNPOネットワーク)

### ■200%幸せ

製造会社を2011年に定年退職した箭内美夫さんは、「今の生活は楽しいですかと聞かれたら、自分で言うのは恥ずかしいですが200%幸せですと答えられます」と、照れます。退職する時に、3つの夢を描いたと言います。一つ目は日本300名山の制覇、二つ目は世界の6大陸で生活すること、三つ目は地域社会への貢献、ボランティア活動をすること。「これらの夢が、思った以上に今できているから楽しいです。」

### ■推進員になったきっかけ

「会社がISO14001（環境マネジメントシステムに関する国際規格）を認定取得する時に事務局長を務め、取得後は統括責任者として維持管理に努めました。」地域社会の一員として、会社のみんなと街なかのごみ拾いなどの活動を実施しました。もう少し広範囲な活動はできないかと考えていた時に、福島県地

球温暖化防止活動推進員養成研修会があることを知り、2009年に推進員に委嘱されました。「退職後も続けています。」

### ■田村市の冬、たつきやま（高き山）と呼ばれる片曾根山

「私は生まれも育ちも阿武隈山系の田村市です。標高400mの高地です。小さい時は、正月は辺り一面銀世界でした。見事なツララが、冬の風物詩でした。」日本300名山制覇の夢は、160山まで叶えたと言います。「ハイエースを改造したキャンピングカーで全国を旅しています。隔年で訪問する北海道の変化には驚きます。以前は、エアコンなど必要ななかったので……。子どもたちの遊び場だった片曾根山に、車が通れる立派な道路ができ、山道や登山道が無くなりつつあるのは「淋しいことです。」

### ■みんなのできる地球温暖化防止活動

箭内さんは、田村市国際交流協会で外国人に日本語を教えながら、推進員の活動も行っています。「家庭では、夏場、西日のあたる窓に、アサガオやゴーヤを植えて緑のカーテンを作り、エアコンの使用を抑えるようにしています。」そのような取り組みを、知人などにも呼びかけています。

うちエコ診断士の資格を昨年取得し、推進員としての活動の幅をますます広げ充実させています。

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>